

令和4年度 自己点検・自己評価

桑名医師会立桑名看護専門学校

大項目	中項目	令和4年度 評価の概要と今後の課題
教育理念・教育目的	教育理念・教育目的の設定及び達成	2022年新カリキュラムが開始され、旧カリキュラムと並行するため、学生への通知、教員間の混乱を招くことも想定し周知を行った。医師会立という設置主体から地域に根差した看護師の養成をする教育機関であり、地域の医療現場を近くに感じながら学べる教育活動を行っていくという運営方針は変わらないことから、理念・目標は大きく変更することはなかったが、示す文言を整理し提示した。新カリキュラムにおいて、3つのポリシーを策定し、教育理念・目標を提示したことは学生にも教員にも理解が得られやすくなったと考える。
教育目標	教育目標の設定及び達成	教育目標は理念・目標とほぼ一貫していると考えている。 教育目標の具体的かつ実現可能という点に関しては、各領域科目毎にシラバス等で到達レベルを確認し評価していく事が必要と考える。
教育課程経営	教育活動経営者の活動	教育課程の評価、見直しはシラバス作成時に毎年教員間で整合性を見直している。見直す時期が年度末となることが多く、前期・後期での見直しが必要である。 教育課程は、概ねカリキュラム進捗計画に沿って進行できている。
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	
	科目・単元構成	
	教育計画	単位履修の方法と修得方法、評価方法は学生便覧に明示されており、4月ガイダンスで学生に周知している。 単位認定の基準は筆記試験、レポート等で評価し、それぞれ評価段階、評価基準を設けて行っている。合格基準は60/100点としている。 他大学等で履修してきた科目に関しては、担当講師とシラバス内容の合致性を確認し認定している。
	教育評価の体系	(専門科目以外) 学生便覧に倫理規定を掲載し、教育に関する公平性を規定している。また学生からの声を「意見箱」を設置し第三者に知らせる方法を設けている。また、総合保険制度に加入しており、学生を守るシステムを採用している。
	教員の教育・研究活動の充実	実習指導や学生指導等に時間を要し、教員の教育・研究活動の時間は十分にとれていない。事務的業務は、事務職員の全面的協力を得、できるだけ授業準備の時間を確保するようにしている。 また、業務の効率化をはかるため、学校管理システムを導入し活用している。研修会には自己申請し、研修費および諸経費が3万円まで補助がある。必要時研修会参加後は、教務会議で報告し情報共有を行っている。今後も、計画的に研修に参加し、自己研鑽に努める。
	臨地実習	学生による実習評価を行っており、教員・臨床指導者に評価内容を還元し、次年度の臨地実習に活かしている。 実習開始前・後に実習指導者会議を行い、前年度の振り返りや実習要綱を基に実習の説明を行い、実習方法についての共有を行っている。学生のインシデント・アクシデントを分析し、安全対策に活かしている。
教授・学習・評価過程	授業内容の妥当性	授業内容やテキストの検討を年度末に行い、シラバスの内容の修正を行っている。 看護技術演習は、教員の協力体制、学内演習担当の非常勤教員で対応できている。 講義に関しては、講義後のリフレクションシートやアンケートによる授業評価教員個々に実施し、授業の振り返りを行っていたが、客観的な評価が得られるように、統一した内容で全教科の授業評価ができる体制を令和5年度から実施予定である。
	授業の展開過程	各科目終講日に実施し、教員間でアンケート内容を共有し、各科目評価内容を活かし、次年度の授業に向けて改善を行うものとする。
	目標達成の評価とフィードバック	非常勤講師に依頼の科目は翌年の講師依頼時に通知し授業に活かせねようにする。 単位認定の評価基準に関しては、学生便覧・実習要綱に記載されており、学生にも周知している。
	学習への動機づけと支援	
	授業・実習評価	

大項目	中項目	令和4年度 評価の概要と今後の課題
経営・管理過程	設置者の意志・指針	設置主体が桑名医師会であり、桑名・桑員地区を中心として卒業生も就業し地域住民の健康の保持増進と生活向上のために貢献できる 看護の実践者を育成しているということを、教職員は認識し学生指導を行っている。しかし、経営方針、運営委員会で協議された事項の報告を運営委員会メンバー以外の教職員に周知徹底する具体的な方法を検討することが必要である。
	組織体制	校務文書・業務基準で職務・業務の役割等を明示している。学校運営会議、教職員会議を定期的に開催し適切に実施している。 教務を補佐する事務職員を配置し、教務と事務部門の組織を整備している。適宜業務分担の見直しを行っている。 個人情報保護に関しては個人情報保護規定において遵守されている。
	財政基盤	図書・視聴覚教材に関しては、年間予算内の分配率も多く持ち、必要なものを検討し購入している。
	施設設備の整備	
経営・管理過程	学生生活の支援	桑名医師会奨学金貸与医療施設奨学金、県修学資金制度、日本学生支援機構、専門実践教育訓練給付金など学生の状況に応じて各種制度の紹介・手続きを行っている。担任との個別面談・指導・国家試験対策、進路相談を行い多角的に支援している。 心の相談室を毎月開設し、学生の状況に応じて定例の開催とは別に対応している。カウンセラーは病院・学校での実務者であり、学生の対応で困ったケースへの助言を教員も受けている。 入学予定者について、入試合格後、入学までの期間に入学前スタートアップの為の学習を提示し、看護を学ぶ前に必要な基礎知識の学力アップを目的として取り組ませている。入学後、学習の確認テストを行っている。
	養成所に関する情報提供	学生の成績状況は年2回学生に配付している。必要に応じて電話にて支援協力依頼や保護者との面接を実施している。 教育活動に関する情報はホームページで情報公開・発信し、定期的に更新している。オープンキャンパスは2回/年実施している。高等学校への訪問、進路ガイダンスへの参加を実施している。
	自己評価・自己点検体制	学校運営全般に関して明確な構想はなく、今後は、中・長期的ビジョンに基づき、年度当初に学校目標、教育目標を立て実施していく必要がある。 自己点検・自己評価については、教職員による「自己点検・自己評価」をおこなっている。今後は教員相互の評価とし、学校運営会議で話し合い、外部評価者から講評を受け運営改善に活かしたい。今年度よりホームページへの公開をしており、更新を行っている。
入学	学生募集活動	教育理念・教育目標を踏まえた学生募集を実施している。受験者数は大学設置の増加に伴い減少している。指定校推薦、社会人入学制度を導入し社会人への門戸を開いている。社会人入試を導入して4年目を迎え受験者の増加がうかがえる半面、一般入試への応募者が減少し、令和5年度の入学生に対して定員を下回る結果となったため、指定校推薦の年度の卒業生が令和4年3月に卒業を迎えるため、その時点で入学後の成績推移から選抜方法の妥当性について評価・見直し令和6年度の入学選考試験を実施する。
卒業・就業・進学	卒業・就業・進学	卒業時の到達目標は、卒業生の特性として明示されているものではなく、1人1人の到達状況の分析は出来ていない。 卒業生の就業・進学状況については、データ蓄積している。就職率は、100%であり理念・目標との整合性はとれている。 就職先との情報交換については、桑名医師会の関連施設と一部の関連外施設から、卒業生の近況についての写真やメッセージを頂いている。他の施設については、リクルートに来校された時に卒業生の様子を聞いている。
地域交流・国際交流	地域交流	毎年参加している地域の防災訓練は、コロナ感染症の感染防止から中止となり参加できていない。老年看護学での地域高齢者との交流は感染対策を十分とったうえ実施した。また、「地域とくらし」「地域の実習」科目に於いては、地域の方々の協力を得て授業を行った。
	国際交流	統合科目の中で「国際看護学」の授業科目をもち世界の中の看護、国内における国際看護の視点を教授している。特別講師にはJica 職員の講師を招き活動報告を聴講した。 外国籍の学生は受け入れているが、留学生の受け入れは行っておらず今後の課題である。
研究	研究活動	研究活動を継続して行える環境（人・時間・予算）にはなっていない。個人研鑽として大学、大学院で行った研究を成果として継続できていない。各自が所属している学会の研修や学術集会への参加もコロナの感染拡大に伴いW e b開催が殆どであった。
	概評	「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に基づいて自己評価・自己点検を行った。新カリキュラム施行の初年度であり教育内容の周知を教員・学生に行った。集計結果より「入学」については0.3ポイント低下し、その他教育内容項目は0.1～0.2ポイント増加した。低下した「入学」の項目は入学者が定員割れしたこと、退学、留年者数がポイント低下にあやかったものとする。「研究」においては教員一人一人、学校として取り組む課題と考える。

	教育理念・教育目的	教育目標	教育課程經營	教育課程經營	教授・学習・評価過程	経営・管理過程	入学	卒業・就業・進学	地域交流・国際交流	研究
令和3年	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	2.2	2.4	2.2	2.1	1.5
令和4年	2.6	2.6	2.4	2.5	2.5	2.3	2.1	2.2	1.9	1.5

自己評価・自己点検

